

日々の田高（生徒会役員の生徒たちが校内の防火扉など確認）

生徒会執行部の生徒から、実践的な避難訓練ができないかとの提案を受け、11月11日の放課後に、生徒会執行部の生徒と避難訓練担当の先生と生徒会担当の先生が放課後の校内をまわりました。

防火シャッターや防火扉の場所を確認するとともに、避難の向きに従ってくぐり戸が開くことや、避難する向きに合わせた非常口の表示があることを知りました。

また、防火シャッターによっては、横に避難する扉がある箇所と扉がない箇所（つまり、行き来できない）があることを確認したり、防火扉に付属するくぐり戸は、跨ぐ必要があるところなど、実際に校内を見ることで、気がつくことがたくさんありました。

1人でも多くの生徒が、現在いる場所から避難する際の経路を知り、周囲と共有することが、発災時に全体が整然と避難できることにつながると考え、参加した生徒たちは、気になることをメモしていました。また、普段は気にしていなかったものの、避難経路としてみた場合、避難の妨げになるものはないのかという視点でも確認できました。

11月の避難訓練では、生徒会役員の思いを取り入れて、火が出た場所の区画にかかる防火扉を閉め、防火シャッターについては、大きな掲示板を設置して、この箇所が閉鎖されると認識して、防火扉の動きがわかるような訓練を考えています。



当日参加した生徒会の役員から感想等を聞きました。

- ◆これまで、防火扉や防火シャッターについて意識することがなかった。今回、先生方と一緒に校内を回ること、存在や動きを知り、課題なども自分のこととして考えることができて、有意義でした。
- ◆先生が作成した、防火扉や防火シャッターの図をともに確認し、誤りがわかり、本当の火災の際に、自分たちがどう逃げれば良いか考えることができた。
- ◆防火シャッター横の扉は、そのまま避難できるが、防火扉についている扉から逃げる時は、跨がないといけないことなど、やってみないとわからないことがあった。